



コベネフィット・アプローチの推進に向けて ～途上国における環境改善と温暖化対策～

事例紹介

鹿島建設 環境本部

三浦一彦

工場廃液・廃棄物におけるコベネフィットの視点

- 現状の問題点・現地ニーズの所在を明確にする
- どんな技術を使うべきか？
日本の技術がそのまま使えるのか？
- どういうスキームだと上手く進むのか？
 - SPC, BOT, ODA, その他

廃液処理の現状



澱粉

ゴム



廃水処理の現状：ラグーン



日本の事例(メタン発酵装置)

- 企業者: 霧島酒造(株)
- 建設場所: 宮崎県都城市

- 処理能力
メタン発酵: 焼酎粕400t/日・芋くず: 10t/日
飼料化: 焼酎粕脱水ケーキ 60t/日



カバードラグーン

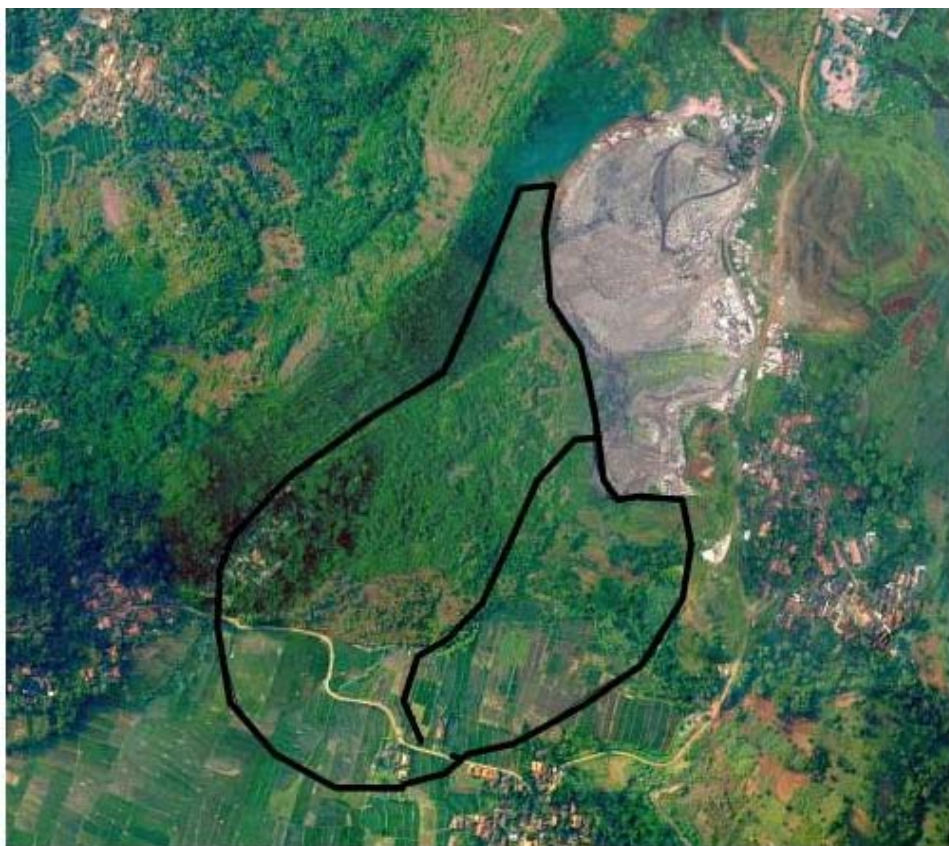


オーストラリア(写真提供: JFEテクノリサーチ)

廃棄物(都市ごみ)処分の現状1



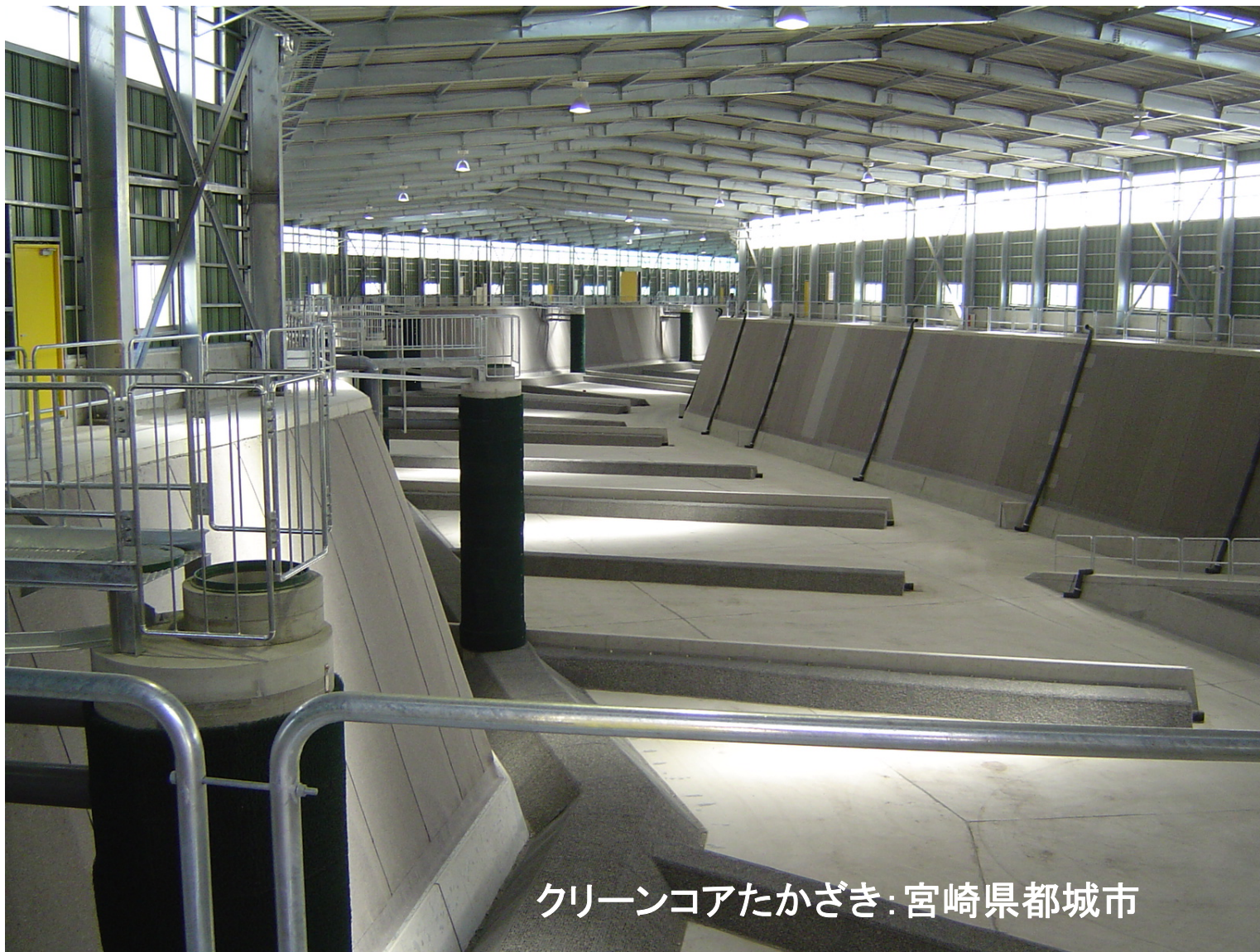
廃棄物処分の現状3



2005年2月20日 死者141名



日本の事例：クロードシステム処分場



クリーンコアたかざき：宮崎県都城市

事例：フィリピン、リサル州テレサ



Open dumping site



Segregation



Composting



Compost



Paper Fuel



Residual block

Features

- Initiative is taken by the mayor
- Challenge to clear the only open dumping site in Teresa
- Promotion of organic farming by compost
- Income generation for waste collectors

写真提供：エックス都市研究所

廃棄物処分の現状2

■廃棄物行政の現状

- ごみ行政予算が少ない
- 回収が不十分 → 不法投棄
- 処分場の管理運営レベルが低い
- 住民反対による新規立地困難

■処分場の実態

- オープンダンピング
- 悪臭、排水たれ流し
- メタンによる発火・火災
- ゴミ山の崩壊事故

